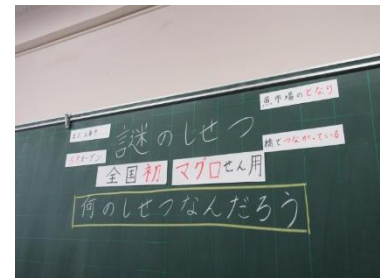


2月16日（金）、名向小学校（3年生）で、経験2年目の先生方の代表として、佐藤健太先生が授業を行いました。

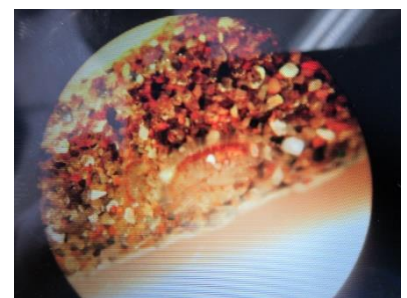


単元は「三崎のマグロ」。この日の授業では、三崎に新しくできる日本で初めての施設について、それが、どんな施設なのか、子どもたちが予想していきました。「マグロレストラン」「冷蔵庫」「三崎マグロ総合センター」などのいろいろな意見が出ました。最後は、

「今度、実際に、詳しい人に聞いて調べてみよう」というまとめとなりました。終了後、授業についての協議会が開かれ、国立教育政策研究所と東京大学海洋アライアンスの先生の講評をいただきました。両方の講評に共通したのは、「子どもたちのつぶやきも多く、それを認める空気も感じる。普段からの授業の雰囲気の良い感じが感じられる」ということでした。助言を受けた点については、今後、研鑽を続けてもらえればと、感じました。



3月1日（木）、初声中学校3年生で、海の砂に住む小さな生き物の授業が行われました。黒崎や長浜、三浦海岸で取ってきた砂を、顕微鏡で観察して、生き物を探し、本研究所で貸し出しているデジタルカメラで撮影していきます。多いグループは、8種類も見つけました。生徒たちからは、「グルグルまわってる」「動いてる、



動いてる」など、歓声が上がっていました。



理科室へ行く途中の廊下には、サイエンスキャスルや海洋教育の集いで使用したA0の大きさのポスターも貼ってありました。



2月16日（金）に、旭小学校の3年生が、昨年の秋に自分たちが種差したワカメの成長の様子を、三浦海岸の沖まで見学に行きました。上宮田漁協の吉田利之さんにお世話になりました。子どもたちは、自分たちの背丈より大きく成長したワカメにビックリ。今後、収穫したワカメを食べる会も行われるそうです。



（文責 事務局長 渋谷）

お問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所（854-9446）まで